

# イマヌエル教報

2021.

# 6

1947年7月1日第三種郵便物認可 2021年6月5日（毎月5日発行）

イマヌエル綜合伝道団

No.899

IMMANUEL

聖霊があなたがたの上に臨まれるとき、地の果てにまで、わたしの証人となります。（使徒 1:8）

## 日ごとの満たし

国内教会局長 大兼久 芳規



「聖霊に満たされ、じっと天を見つめていたステパノは、神の栄光と神の右に立っておられるイエスを見て……。」（使徒の働き七章55節）

ペンテコステ前の弟子たちは自分に限界を感じていました。主は十字架に架かれ、よみがえり、そして自分たちにお姿を現され、天に帰られた。自分たちは、復活の主を知る喜びはありましたが足りない。何が足りない、そのような思いで二階座敷にいました。私たちもコロナ禍での二年目の歩みをしています。昨年は無我夢中で、その日その週をどう乗り越えていったらよいか必死でした。しかし、この二年目も何度も押し寄せる感染の波に、対処はしていませんが、乗り越えるほどの知識も、また対策も十分ではない。そのような「足りなさ」を覚えています。

もちろん人間的な方策、最新の各教会・各教団の対応に似たことをすることもできるでしょう。しかし、教会の建て上げは、弟子の知恵による人間的な対応ではありませんでした。

私たちは自らの力に限界を感じる時は、幸いです。それは神の方法を待つときになります。自らの足りなさを感じ、集まり祈るところに人間的な力に空しくなった者たちの集まりに聖霊の介入がありました。

主の弟子たちは使徒二章で豊かな御霊の注ぎを経験して、その後も、事々に「御霊に満たされ」「御霊によって」事を越えている姿が記されています。

この箇所でも、御霊の働きは私たちに主のみこ

ろに沿った歩みをさせます。本来でしたら迫害する者にさばきを祈ることもできたでしょうが、その判断を主に任せ、最も大切なもの（自分のたましい）を御手にゆだねることができたのも御霊による実でした。

ここにはステパノが、厳しい状況に置かれていたが、その中で彼が信仰者として歩めたのは、その「日ごとの満たし」でした。御霊による歩みは、信仰者が見なくてよいものから目を離させ、見るべきものに目を向けます。御霊の満たしは、迫害する者への裁きの祈りから、主イエスご自身に目を向けさせます。

またステパノは、御霊によって見るべきものを「じっと見た」とも記されています。私たちもこの二年目の歩みに、見るべきものを「じっと見る」ことによって、自らを守り、確かな歩みへと進ませていただきます。私たちが「じっと見る」べきお方はただ一人、私のために立ち上がっておられる主イエスです。このお方に焦点が定まってくるときに、恐れるべきこととはありません。人間的な方策を越える道を、いつも備えてくださるお方です。言い換えると、このお方から視線がそれているならば、その対応が最善に見えていても、それは上からの解決にはなりません。この月も弟子たちが、日々に御霊に満たされていたように、私たちも見ることがお方から目を離さない月とならせていただきます。

「信仰の創始者であり完成者であるイエスから、目を離さないでいなさい。」

### 目次

- 日ごとの見だし……大兼久芳規……1
- 年會を越えて、コロナ禍での教会、世界宣教局……2
- 教団運営委員会、教育局運営委員会、セミナー案内……3
- 海外トピックス、国内教会局、Re……4
- 南日本ブロック近況と祈りの課題、燭台……5
- 広げた翼……6～8
- 聖宣神学院報……9～11
- 公報、消息……12

# Immanuel

教団が一つとなるために……

## 第76次教団年会を越えて

# 互いに支え合う信仰共同体の 主イエスにある一致

教団代表 岩上祝仁

「キリストによって、からだ全体は、あらゆる節々を支えとして組み合わされ、つなぎ合わされ、それぞれの部分がその分に応じて働くことにより成長して、愛のうちに建てられることとなります。」

(エペソ四章16節)

教団として新しい歩みを踏み出した第76次年会を越えて、早や2か月余りが過ぎました。転任・異動も無事に終わりました。背後のお祈りに心から感謝いたします。

今年「主イエスにある一致」を目指し、コロナ対策を含め教団としての取り組みを始めています。

コロナ禍中の教団・教会の営みを考えるとき、特に「孤立」することがないように、疲れ切つてしまわないように、群れを挙げて対応したいと思います。愛をもって互いに声をかけ、祈り合い、重荷を分かち合い、共に語り合う、そのようなキリストのからだ、信仰の共同体を建て上げるようにと導かれています。一致の土台となる教団内の結び目を強くするために、

先ずはコミュニケーションと連携を深めるための取り組みを始めています。国内教会局では月に1回のペースで局長、BAたちが共に祈り、情報交換と討議を重ねながら、特にコロナ禍での地域教会をどのように支えることができるか取り組んでいます。また女性牧師部でも女性牧師全体のネットワーク作りにも力を注いでいます。先生方と教会の孤立を防ぎ、共に祈りながら手を携えて、伝道と教会建設に当たっていただくためです。また、教育局ではCS部・青少年課・青年部のコーディネーターたちによって、教団を挙げて次世代の育成に取り組み土台作りが始まっています。神学院では新しい学監・寮監が任命されて、BTC運営委員会・教師会と共に神学生の育成に当たっています。世界宣教局と国内教会局との連携についての話し合いも始まりました。

この総会期はコロナ禍に関わる様々な困難が予測されます。教職員と牧師の高齢化の問題もあります。そのために、主の与えてくださった愛と福音の力によって私たち相互の愛の結び目を強くし、連携を具体化していかなければなりません。目指すのは、私たちの群れが主のからだとして愛のうちに建て上げられることです。それはイムマヌエルが主から与えられた「聖と宣」の使命だからです。イムマヌエルの群れが信仰によって一つとなり、コロナ禍を乗り越えて行くことができますように。

コロナ禍での教会……

## 対応、そして克服へ 次世代へどう繋ぐか

西日本BA 葛田聡毅

少し広い地域の諸教会を覚えてともに祈る機会を与えられてから、コロナ禍の影響や対応にもかなり地域差があり、各教会のメンバーや文化・伝統の特徴も垣間見えることを肌で感じます。

「正解」はそれぞれの教会にあり、それを探っていくことにも意味があると思います。その上で、敢えて個人的に問い直されている事を述べさせて頂きます。

### ▼教会と礼拝

会堂で集まるのが制限されて、動画配信や週報・礼拝説教メモを配布するという手段を取る教会も多くなりました。宣言や要請が解除されてからも続けながら、今までももつとできた、特別な状況にある方々に、もつと届けた苦だと反省します。と同時に取りあえず説教メモを斜め読みしたり、説教だけ早送りで聞いたりするだけで本心に礼拝に加わったと言えるか、礼拝って一体何だろうか、とも問い直されます。

また動画配信で世界中の教会の礼拝に加われるのが楽しみという

声も聞きます。確かに新鮮で良いかもしれません。でも所属教会の礼拝を離れて他教会の動画を視て礼拝に代えていると聞くと、主の導きの内に所属している教会への責任感、愛は、とも問われます。

### ▼教会とインターネット

コロナ前から導入した所もあり、私も兼牧の時には重宝しました。老齢やご病気で教会に来られない方や、遠隔地の方も同時に礼拝に加われます。未信者の家族も共に画像の前に座しておられるという報告も聞きます。導入には比較的慎重だった教会も、コロナで無理矢理引き込まれた状況です。今後更に用途は広がり、更に利便性が引き出されてゆくでしょう。しかし教会に集まることによって経験できる交わり、愛の実践、互いに研がれること等の、大切な要素を補うには尚不十分とも痛感しつつ、有効・有意義な教会のプログラムの中で再考と再構築の機会です。

### ▼教会と次世代

コロナ禍が教会に与えた最大の影響の一つは、先に述べたITの導入でしょう。しかし教会の外では、特に若い方々は物心ついた時にはテレビ電話が当たり前、良し悪しは別として、テーブルを挟んでメールで会話することさえあります。次世代に繋ぐためには次世代の力が不可欠です。教会が彼らの文化に少し追いついた感じですが、コロナ後の世界は本当に不明ですが、次世代の活躍にこそ、活路と希望があると信じます。

世界宣教局運営委員会

## 局の運営委員会を 毎月開催します

世界宣教局長 田辺寿雄

世界宣教局ではこれまで、実務会を月1回、運営委員会と局員会を年に2回開催していましたが、今年の総会と年会で、局長の交代や新しいメンバーが局員に加えられることを踏まえて、運営委員会を局運営の軸として毎月開催してくようにしました。現在のメンバーは、局長、支援部長の葛田敬子師、庶務部長(会計)の小笠原兄、広報部長の野田禎師、広げた翼編集担当の阪下崇子師、局員の葛田康教師と平瀬義樹師です。

毎回、会計や各宣教師(地)、各部の報告などに加え、宣教師方の健康状態や子どもたちの教育、特に今では各国のコロナ感染状況など、その時々に必要なことを、時間はかかってもなるべく細やかに話し合うように努めています。足りない分は、日常的なメールのやり取りで補っています。

最近では、久保宣教師方のピザが1日でも早く発給されることを願って、運営委員会のメンバーで「各自お風呂に入る度にピザのために祈る」ようにしました。ピザが下り、無事入国されて一同で心から感謝したことです。

教団運営委員会から……

### 各局の課題に対処

#### 新たな取り組みも

広報 浜田耕三



年会を越えて最初の教団運営委員会が、5月18日にリモートにて開催されました。今回は新年度の踏み出しにあたり、各局の進捗状況が分かち合われ、諸課題に対する検討が行われました。

また、葛田聡毅師のご労により、急遽、関西空港から台湾宣教に出発される久保先生方もリモートでつなぎ、派遣の祈りが捧げられました。

初めに代表より、ヨハネ六章63節が開かれ、この「いのちのパン」論争の締め括りのみことばから、教会、教団の働きは霊的な営みであるため、「聖霊」に拠らなければならぬことが語られました。

国内の教会において転任となられた先生方は無事に着任され、新たな地において働きを進めておられます。また、コロナ感染拡大の最中ですが、今年も全国においてZoomやDVDを用いながらの聖会が計画されています。なお、国内・総務局では、教団ホームページ

に各教会の情報を掲載するように検討が進められています。

久保先生方（台湾）は入国後、3週間の自主隔離を取り、その後、平瀬義樹師と引継ぎをされます。それぞれの先生方の新たな国内外にてのご奉仕のため、またコロナ感染拡大の中、宣教地にて労しておられる器方のためにお祈りください。なお「宣教訪問団」はコロナが収束するまで延期します。

青少年部ではYSの名称を「ビルド」に変更し、毎月1回、テーマを定めてオンラインにて開催されることになりました。また夏に開催される「とにキャン」（リモート）やYSBリトリート（初夏、秋）などの働きのためにもお祈りください。

聖宣神学院では新入生を迎えて、新年度の営みが始まりました。授業は当初、対面方式でしたが、コロナ感染拡大により、オンライン主体に移行しています。

信徒局ではこの秋に記念すべき第一回信徒フォーラムを開催します（YouTube、Zoom等を用いて全国配信されます）。若い青年方もぜひご参加ください。

コロナ禍での教会、教団の働きについての意見交換が行われ、インターネット礼拝などについても話し合われました。

最後に岩上代表より、インマヌエルとしてのアイデンティティー（聖と宣）についての確認の時間が持たれ、祈りをもって締め括られました。

### 教育局運営委員会から

#### 次世代を育成する大切な働きです 積極的な参加を期待して



教育局長 小川宣嗣

5月に持たれた局運営委員会の協議内容をお伝えします。

教育部・生涯学習課では、「途上のわれら」の発行を継続すること、また若手牧師対象の研修会や「聖潔」を改めて取り上げるテーマ別研修会など、伝道者の生涯教育のためにオンラインでの研修プログラムの提供を準備中です。

教育部・信徒教育課では、信徒向け聖書講座として各教会で自由に視聴し学んで頂ける「使徒の働きの学び」の提供を始め、過去の信徒聖書講座ビデオの活用を準備中です。今年も信徒伝道者スクーリングは秋に開催予定です。地域教会牧師の働きを助ける信徒伝道者の興起も祈られています。

青少年部・青年課では、4名の信徒青年委員がビルドの会合を月に一回開催し、毎回15〜20名程の参加者がテーマに沿って幸いな語り合いを重ねています。関心のある方・教会は、ぜひ青年課担当牧師までコンタクトをお取りください。

い。またYSBリトリートを6月27日に開催予定です。テーマは「神さまと教会と私」です。オンライン開催ですので、全国から参加者が興されることを願っています。

中高生課では、先月5月16日、23日、30日の3回に亘り、スタッフトレーニングキャンプがオンライン開催されました。内容は、「とにキャン」の組織と目的（ミッション・ステートメント）、「神の奉仕者とは（総論）」、「グループリーダーの心得」「ミュージック・グランドワーカーの心得」「ケース・スタディ」「個人伝道」など。スタッフ&牧師合わせて計23名の方々が参加し、学びの時間が持たれました。

教会学校課では、今年の活動として、ホームページを新しくしたり、子ども用洗礼準備の葉の年内発行（10月には全国教会にサンプル発送）、紙芝居の新作製作、イベントなどに集まった子どもたちを次回につなげるためのトレーディングカード作成、子ども向け教理動画やぬりえ紙芝居の音声付き動画の作成と配信など…への取り組みがなされていきます。

年会を越えて新体制になり、教育部2課全体顔合わせを初めて持ったり、青少年部3課の連携を深めるために、重複担当者たちが集まり初協議をしたりなど、コミュニケーションを心掛けています。他の部局とも協力関係を強めつつ、伝道者と信徒教育に取り組みたく願っておりますので、今後ともお祈りをお願い致します。

今年も信徒伝道者スクーリングは秋に開催予定です。地域教会牧師の働きを助ける信徒伝道者の興起も祈られています。

### 「コロナ禍における教会形成」

#### セミナーのご案内

国内教会局長 大兼久芳規

今月は宣教研究委員会・国内教会局の主催による「コロナ禍における教会形成」公開Zoomセミナーを開催いたします。昨年より全国教会は新型コロナウイルスの影響で大きな変化を余儀なくされています。昨秋に実施したアンケートの結果報告を共有し、コロナ禍の伝道と牧会についての発題とレスポンス、グループ別の分かち合いを通して、これからの教会形成をご一緒に考える時を持ちたいと思います。牧師に限らず信徒の方々のご参加も可能です。

#### 開催日程

6月14日（月）午後1時30分〜3時30分  
6月28日（月）午後1時30分〜3時30分

●申込先  
●申込先  
●申込先

6月14日（月）午後1時30分〜3時30分  
6月28日（月）午後1時30分〜3時30分  
6月14日（月）午後1時30分〜3時30分  
6月28日（月）午後1時30分〜3時30分

国内教会局から

コロナ禍にある教会  
必ず届く聖日礼拝のみことば



コロナの一日も早い終息を祈っていますが、なかなか収まりそうにありません。教会は何ができるかを祈りながら模索していますが、現状では集まることが難しい教会も増えていきます。礼拝は私たちにとって信

仰生活の中心であり、いのちです。ですから私たちは知恵を絞り、集まることができない場合は週報やメッセージ、CDなどを届けたら、オンライン配信をするなど、さまざまな方法を用いて礼拝を守ります。形は変わっても礼拝を止めることは絶対ありません。荒野を進むイスラエルの民は、40年間マナが無かつ

た日はありませんでした。場所や形態が変わっても、神様は私たちに必ずみことばを届けてくださいます。私たちの信仰の長い道筋にみことばは必ず備えられていて、私たちの手許に届けられるのです。このような時だからこそ、主が届けてくださるのみことばをしっかりと受け留めたいと思います。(阪下謙)

■パリのノートルダム火災2年 2019年4月のパリ・ノートルダム大聖堂の火災から15日でも2年を迎える。現場では新型コロナウイルス流行に伴う制約の中で進められてきた建物の保全作業が大詰めを迎えている。今年冬には修復作業に入る見込みで、「24年に、信者たちへ内部を開放する目標は達成できる」と政府は明らかにした。

から1年半かけて乾燥させる。 ■「口で唱える祈り」の大切さ 教皇フランシスコが一般謁見をバチカン宮殿から中継で行い、「キリスト教的祈り」をめぐる講話で、「口に出して唱える祈り」には欠くことのできないものである。イエスの沈黙の祈りに引きつけられた弟子たちに、イエスは『主の祈り』という一つの口禱を教えられた」と、口禱の重要さを語り、さらに「口に出す祈りの言葉は、私たちの手を取り、確実に神へと導く」と述べ、口禱の価値を再発見し、大切にするように勧めた。



海外トピックス

■新たな「死海文書」断片発見か イスラエル考古学庁（IAA）がこのほど、現存する最古の聖書写本として知られる『死海文書』の新たな断片を発見したと発表。調査団はさらなる発見を目指し死海西部の砂漠で活動を続ける。考古学庁によると、見つかったのは羊皮紙の断片80点超で、最大のは長辺が十数cmと手のひらほどの大きさ。「完全な正義を尽くせ」などと聖書セカリヤ書の文章が書かれた断片もあった。一部を除き古代ギリシヤ語だという。(平瀬聡樹)

青年たちの新しい試み!

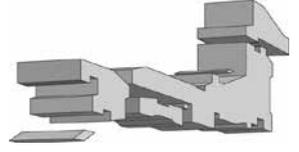
“はじめましてでも参加しやすい集い”を目指して  
Re(アールイー)

神戸教会 吉村 聡

デニス・キンロー先生の著書『エマオの道で』の「弟子を召す」という箇所、「人はどのようにしてキリストと出会うのでしょうか」という書き出しで始まる。弟子たちが、最初どのようにしてイエス様と邂逅したのかという説明の後、その出来事を抽象化して、信仰者としての責任や姿勢などへの問いかけをもって締めくくられるのだが、そこで語られているのは、「誰かを介してキリストと出会う」ということだ。その箇所では、最初の弟子たちのうち二人は洗礼者ヨハネによってイエス様の許に来たということが紹介されている。教会では、友人や知人など、周りの人に福音を伝えることを伝道と呼び、それを奨励する。すると教会には、導かれ、招き入れられる人がいるわけだが、そういった方々が少しでも参加しやすく、かつ聖書や救いのメッセージに触れられる機会を増やしたい、そんな願いをもって立ち上げられたのが、Re(アールイー)である。

コンセプトは、タイトルにもあるように「はじめましてでも参加しやすい。」特に教会内でユースと呼ばれる世代が、友達などを誘いやすい場として展開していくことを目標としている。そして5月2日(日)に第一回目が行われた。オンライン上に約60名が参加し、「REAL(リアル)」というテーマのもと、講師の松尾献先生に、まさに、はじめましての人にも分かりやすい救いのメッセージを語っていただいた。今回企画の中で、クリスチャン百人にアンケートを取り、回答の集計結果を予想するというものを実施した。そのうちのひとつ、「教会に行くようになったきっかけは何?」という質問に対して、他の選択肢を抑えて「家族・知人・友人の誘い」という回答が一番多数となり、全体の63%を占めた。やはり福音は「誰かを介して」広がっていくことが多いということとを思わせる結果である。特に、情報が錯乱し、様々なコンテンツが溢れる現代において、親しい人、知っている人の誘いの言葉は届きやすいのかもしれない。Re(アールイー)は、そうして繋がった人達が参加しやすく、救いのメッセージが一層分かりやすく受け取ることでできる場として広がっていくことを願って、今後も活動をしていく。この活動を覚えて、ぜひ身近な人に、Re(アールイー)のcomment(オススメ)していただけると幸いです。

# 国内教会局 スクエア



## 南日本ブロックの 近況と祈りの課題

ブロック・アドバイザー

阪下 謙

南日本ブロックのためにお祈りを感謝いたします。現在はコロナ感染急増によって教会の働きに難しい判断が迫られており、それぞれの教会で最善の導きを祈りながら模索しています。

\* 中国教区では4月18日(日)午後11時にZoomで教区会をもちました。教区全体の教会がラインでつながっており、コミュニケーションはよく取れています

中国教区では4月18日(日)午後11時にZoomで教区会をもちました。教区全体の教会がラインでつながっており、コミュニケーションはよく取れています

濱田教会は平瀬師を中心に、内山師、南場師とともに信徒の方々も重荷を担ってくださって教会の働きを進めています。

松江教会は第5聖日に音楽プログラムでの礼拝を計画し、伝道の働きを進めます。

鳥取教会は、会堂と家庭で礼拝を守っており、伝道の働きを進めています。

岡山教会は、礼拝や祈禱会をZoom、YouTube配信を行い、普段教会に来られない方々にもメッセージを届けています。

置を計画しています。呉教会はコロナ対策のため礼拝を2回に分けています。キッズ、ジュニアの働きも積極的に進めています。

山口教会はコロナ対策のため礼拝を2回にするなど細やかに教会の働きを進めています。浜田教会と兼牧している平瀬師のためにお祈りください。

\* 北九州教区では4月20日(火)午後11時にZoomで教区会をもちました。

北九州教区では4月20日(火)午後11時にZoomで教区会をもちました。北九州教会は対面の礼拝がなされておられ、礼拝には求道者の方も集まっています。

福岡教会はコロナ感染のため対面の礼拝が持てないことも多いのですが、週報や礼拝メッセージの配布など細やかな働きを通して教会が守られています。

久留米教会はYouTubeのライブと対面の礼拝を並行して行っています。祈禱会も音声配信しながら守っています。

別府教会は、礼拝や祈禱会を2部制にして密を避けながら集会を

もっています。CSでは成年クラスを始めました。

中津伝道所は短縮礼拝を行い、教会に来られない人には週報や礼拝説教を郵送しています。

大分伝道所は礼拝や祈禱会、教会学校を行うことができ、佐賀教会は短縮礼拝をしながら礼拝に集う求道者の救いのために働きを進めています。

長崎教会は短縮礼拝を行いながら救霊の働きも進めています。また昨年末に会堂融資の返済を終了しました。

\* 南九州教区では4月12日(月)13日(火)に鹿屋青年自然の家で教区会がもたれました。

始良教会は伊藤明子師が赴任されて教会活動が営まれています。これまで重荷を担われました前田先生ご夫妻や末弘嘉孝先生のご奉仕に感謝しています。

熊本教会は3月5日(金)に会堂が放火されましたが、最小限の被害(玄関ドアと入口のタイル)に留められました。さらなるみ守りをお祈りください。

宮崎教会は礼拝に求道者の方も来られており、救霊の働きが進められています。

鹿屋教会は屋根の改修工事が終了しました。コロナ禍でも積極的に伝道を進めています。

指宿教会は数名の求道者がおり、救われるように伝道の働きが進められています。



## 福音のパンデミック

世界はパンデミック。

この禍中にあればこそ、福音のパンデミック?的勢いを、リアルに読み取れるように思っています。この困惑とひっ迫の最中に、悠長なことを申すようですが。

一世を風靡された、主イエス。

主イエスが来られたのは、政治、宗教、交通、人々の意識状態など、その福音が広まるためには最高の舞台のどまんなかでした。洗礼者ヨハネの集中力極まった前ぶれの追い風に乗って、福音の感化力は高まりを見せ、いたるところの会堂や町々で、クラスタ的な人々が、その方々は漁師、取税人、会堂管理、百人隊長など、職種問わず。

サマリヤ人、ギリシヤ人、ローマ人と、人種も問わず。老若男女も問いません。病を負う方々も、主イエスの福音に触れますと、完全に癒され、たましいも健康に。

まずまずの安定を得てきた為政者、律法の専門家たちは、社会の色を塗り替えていくこの想定外の波に慌てふためき、なんとかその拡大を抑え込もうとしますが、よもやの事々が次から次で追いつかず。たった五つのパンと二匹の魚のランチタイムに、なんと5千人

が一挙に! 飲食の場は最も感化力強まると認識すれども、すでに後手。としたところへ主イエスが死人を復活させたというニュース。ああ、決定打が出ちゃった。さまざまな協議を折り重ねてきた為政者、専門家方は、もはや手選ばざるの強硬策に。抑え込みを顯示したくて、人々が都に上り集まった祭り最中に、主イエスを十字架刑にさらした。気乗りしなかった総督ピラトは、手の消毒パフォーマンスで責任逃れ。

やれやれ終息したか、と胸をなでおろすもつかの間、今度は主イエス自身が復活した、と。五旬節には、密に一つ所に集まっていた弟子たちが聖霊によりパワーアップ(変異株的?)。あろうことか、切り札としていたパウロまでもが奪われた。ロックダウンや各防壁策、またパウロを牢に閉じ込めるなどして抑え込もうにも、その福音の勢いはどんどんと力を増し、ローマの敷いた道路、航路を通り、全世界へと拡大していったのです。

主よ待ち望めるリバイバル、昔のごとくに業を、主よ行いたまえ(インマヌエル讚美歌 347番) (川村宏美)

巻頭言

聖霊と私たち



世界宣教局 葛田 敬子



広げた翼

Immanuel His Wings

Department of World Missions

世界宣教局

http://www.immanuel.or.jp/world/

「聖霊と私たちは、次の必要なことのほかに、あなたがたに、それ以上のどんな重荷も負わせないことを決めました。……祝福を祈ります。」(使徒の働き一五章

28、29節) ペンテコステの月を越えました。イエスさまのご昇天以来、緊張や心許なさを覚えながらも、語られた通り都に留まり、祈っていた弟子たちに聖霊が豊かに注がれました。弟子たちは御父の御約束通り、主の証人となって立ち上がり、その働きは広がっていききました。その中で、教会の中に一つの大きな議論が起こります。異邦人へのように入会に迎えるべきか、というところで激しい対立となったのです。今まで考える必要のなかった初めての経験の中で、簡単に答えの出る問題ではありません。神さまの御意は何かという、律法に基づいた真剣な議論だったことでしょうか。しかしその結論は、議論を尽くして行き着いたものではあ

りませんでした。実際に起きている出来事、その証しと報告の中に、神さまの御意は何か、神さまがしておられることは何かと耳を傾け、目を向けて問うことから生まれた一致でした。激しい議論の中に対立しているときには、自分の経験からくる主張やこだわりが正義に思えるものです。一歩間違えると、相手をさばき、神の御名の下にイエスさまを十字架に追いやり、パウロを暗殺しようと付け回したユダヤ人の姿に重なっていきます。しかし教会の素晴らしところは、文字の上ではなく、生ける聖霊との交わりの中に神さまの御旨を知ろうと求め、耳を傾けて柔軟に従う姿勢を持てたことでした。先入観や自己主張無しに「本当に」神さまの御旨に生きる喜び、新しさを知っていたからでしょう。同じ信仰者であっても一人一人個性も生い立ちも考え方も違います。教会の一致は、誰かに合わせて誰かが我慢して作り上げるものではないでしょうか。むしろ、豊かな多様な性を持った一人一人が、内に働かせる御霊と一つになることを心から願って進む時、その同じ御霊のゆえにオーケストラのハーモニーのような一致を、主にあって経験して行くものではないでしょうか。教会が「聖霊と私たちは：決まりました」と心を合わせて言えることが、初めて経験する壁や混乱、不安の中でも前に進み、用いられる道なのではないでしょうか。

「互いに愛し合いなさい。…互いの間に愛があるなら、それによって、あなたがたがわたしの弟子であることを、すべての人が認めるようになります。」(ヨハネ一三章34、35節) ここ3、4年間、コロナ禍の封鎖が一時的に開放された時のこと、空気を狙って開かれた「牧師家族の霊的リトリート」に出席が許された伝道者たちの一部です。全員の顔が喜びに満ち溢れた笑顔で感謝です。この写真から既に2年余りが過ぎましたが、収まりかけたコロナ禍は再び第三波の渦中に、この度は国全体に広がり、特にレッドゾーンと指定された地区の住民は外出禁止令で一歩も出られず、政府は食料を各家庭に配布するという状態。幸いKCC関係者はその区域に居住しておられます。しかし、外出は食料品の購入のためだけに許され、他の地域への訪問は許されず、地方教会訪問もできません。プノンペン市内です



CAMBODIA

カンボジア

葛田緑乃\*2021年4月30日



ら、ヴァンデー師、グレッグ師、マーク師の週一度の定期祈り会も、3人の住まいがそれぞれ異なる地区のため、祈り合うことすらできなくなりました。まして地方に散った伝道者とその教会の訪問は許されておりません。その様中、テス夫人は大学の仕事も辞職という形で止めねばならず、暫くは無収入状態となり、息子のダビデ君の教育費も出せなくなり、学校に行けない状況となり、主の御心を祈り求めておられるとのことでした。それでも彼の主への信頼は揺るぐことなく、「今日まで不思議に必要を満たしつつ伝道活動に導いてくださった主を信じてお従いできることを感謝しています。」とスカイプで語り合い、祈り合うひと時に主が御目を留めてくださることを信じております。投獄中のパウロ兄も獄中伝道者となれますようお祈りいただきたく、よろしくお願いたします。



TAIWAN

台湾

久保光彦・せきな\*2021年5月7日

「しかし、今やキリストは、眠った者の初穂として死者の中からよみがえられました。」  
 (1コリント一五章20節)

◆なくなつて改めて知る恵み  
 このひと月、台湾ではいろいろな事が次から次に発生しました。日本でも大々的に報道された東部の鉄道事故、頻発する中規模の地震、信号器等のインフラ整備に伴う断続的な停電、そして全国的な深刻な水不足に伴う出水制限、週に二日の断水が市内では今もなお継続、実施中です。普段当たり前のように使っているこれらのものが急にストップし使うことができなくなると、改めて当たり前が実は当たり前ではないということに強く覚えさせられています。

台中教会では、光世師を日本に送り出し、その不在の大きさを痛感しつつ、教会の愛兄弟姉妹が自発的にその穴を埋めるかのように、これまで以上に教会のご奉仕に加わってくださるようになりました。

今年のイースター礼拝後には、みんながイースターエッグを作り、軽食を準備し、久しぶりの愛餐の時を持ちました。また11日には台中でも台南でも春の聖餐式を守ることが許されました。頌栄の奏樂や歓迎礼拝の讚美PPTの作成、讚美チームの練習日の自主的な増加、礼拝の生花など、奉仕者が加えられつつあります。また有志の愛兄弟姉妹が主導し、霊的な必要からオンラインの聖研や聖書朗読会なども適宜、開催されています。



◆久保先生ご一家との初顔合わせ  
 4月25日の礼拝後には、オンラインで日本で準備待機中の久保先生ご一家と台中教会の愛兄弟姉妹との初顔合わせの時を持ちました。台中でも台南でも、宣教師・牧師の交代を信仰的に理解し、どのような受け入れ体制、準備ができるかがより具体的に話し合われるようになってきました。コロナの影響でいろいろな事態を想定しつつ、

先生方の来台を祈りつつ待つています。  
 (平瀬義樹)

◆台湾赴任準備篇  
 いつも小さき者たちのために尊いお祈りをありがとうございます。先の年会におきまして、小さき者たちは台湾の台中国際キリスト教会への任命を頂戴いたしました。この原稿を執筆している4月30日現在、宣教師ビザ(宗教査証)の書類申請を済ませ、発給を待っています。

ご承知のように、日本国内の新型コロナ肺炎感染状況は日に日に悪化する中にあります。台湾国内の報道等では国全体で一日3件の新規感染者が報告されただけで「暴増3例」という表現で報道されるくらいですから、日本の状況がどのように見えているのかと思ってしまう。このままだと国内の感染状況が改善されなければ査証が発給される前に渡航制限などが出される恐れもあります。何とか一日も早く査証が発給され、滞りなく台湾に赴任できるようお祈りいただけますなら感謝です。



\*ビザは5月14日に発給、同18日無事渡航されました。(編者注)



PHILIPPINES

フィリピン

豊田常喜・恭子\*2021年5月10日

「この方こそまさしく神。世々限りなく われらの神。神は 死を越えて私たちを導かれる。」(詩篇四八篇)

フィリピンは盛夏で、日中35度を越える猛暑に見舞われています。一方、大学は学期末を迎え、学生たちも先生たちも四苦八苦しながらも主の恵みによって支えられここまで来ることができました。来月には、卒業式を迎えます。

受難週、キリストが十字架に架けられた金曜日(グッドフライデー)に、職員とその家族が集まり礼拝する時がチャペルでもたれました。プログラムの中で、十字架上で発せられたイエス・キリストの七つの言葉に思い巡らし、分かち合う時が与えられました。私たちにも弟子の一人に母マリアを委ねられたことば(ヨハネ一九章26、27節)が予め割り当てられていました。私たちの順番では、二人で前に出て、二人でみことばの思い巡らしを分かち合いました。

プログラムでは、職員の子どもの特別讚美もあり、希乃実が参加しました。



オンライン授業をどのように進めるかはそれぞれの先生に任されています。フィリピンでのオンライン授業の難しさは、学生たちのネット環境が整えられていないことです。またほとんどの学生たちはパソコン、タブレットを持っていませんので、スマートフォンで受講し、課題などに取り組むこととなります。こうしたことを考慮しながらオンライン授業を進めようとする、いろいろな困難が生じます。例えば、ネットの速度が遅いために授業に参加できない学生がいたり、課題を締め切り日に提出できない学生が出てきます。常喜のクラスの場合は、オンラ

インクラスを録画しておき、ビデオと授業で使われた資料を投稿し、オンデマンドで学生たちがいつでも視聴できるようにしておきます。提出期限は設定しますが、スマートフォンで課題を作成していることの困難さを考慮し、採点には影響が出ないようにしています。課題やテストについては、学生たちを非倫理的な行為から遠ざげるため論述形式にし、授業内容の理解を確かめる程度の課題を出します。論述形式は採点に時間と労力がかかりますので、返却に時間を要してしまふことがあります。オンライン授業を進めて行くうちに改善点が見つかれば、改善して行きます。



**KENYA**

**ケニア・テヌウェク**

葛田就子\*2021年5月5日

4月から約1か月の年次休暇中。今年のリトリートは感染率急上昇により中止、各自リトリート。年次休暇前、昨年の愛の泉献金プロジェクトで承認されたシリンジポンプスタンド到着。短く献別

式。シリンジポンプは、心臓外科手術患者さん等に微量薬剤投与する機械。何台も使いベッド周辺が機械とコードだらけになるところをすっきりまとめ、配線を減らすスタンド。当初情報では三台位購入できるはずが、見積もり以後は一台がギリギリ購入できるかという所。ケニアへの送金は手数料がかなり、換金でも減るため、直接日本から業者に送金することに。病院の承認も得て、業者に送金方法の確認。最近はずく・早く行われることに驚く事が多いが、今回は一年以上かかった。送金口座情報取得に数か月、追加情報入手に数か月。病院の他の注文と混同され訂正による遅延が少なくとも二回。ケニアシリングでなくドルの見積もりを請求して届くまで数か月。全て情報が揃い、送金後に「届いていない」と返信。お預かりした大切な献金が！と肝を冷やしなが祈りながら担当の人の上司や経理の直接の方々に交えた問い合わせで確認が取れるまで一か月、現品が手元に届くまで数週間。それでも細かい不備があり、まだ要問い合わせであるが、まずは手元に届き、感謝。

別件の遅延も。発送から数週間ですインターネットから調べると、ケニアに着いてから「差出人・受取人拒否のため保管」となっていた。「問い合わせも差出人からのメールも無かったが？」と思いつつ、保管料などが加算されたら一体いくらになるのだろう、とこれ

も肝を冷やしつつ、祈りつつ、涉外担当者に委ねた。同じ輸送業者からの国際便が何事もなく届くのを横目で見ながら、なぜ今回は引つかかってしまったのか、と嘆く気持ちも。祈る機会を与えられ、普段普通に届く事の感謝を想起させられた。休暇中に無事に届いたと主任から聞き、感謝。手足の血流を調べるドップラーという機械だったので、特に感謝。

イースターは、ある宣教師の庭に金曜日に十字架が立てられ、日曜に早朝礼拝の後、持ち寄った花が飾られた。今年は間隔を広く取つての集会。

自粛しすぎてまた車のバッテリーが上がり、同じ建物のケニア人外科医夫妻に助けて頂いた。



- 会計報告4月分  
宣教献金 一、五七七、二七二円  
月平均 一、八八四、六七六円
- お祈りの課題
- 台湾(平瀨)  
◆久保先生一家の赴任に関わるすべてが守られ、順調にご奉仕を開始できますように
- ◆祈りつつ待つ台中教会と三周年を迎えた台南日本語礼拝(5月9日)の働きが祝されますように
- ◆最近、新しく来た方々、久しぶりの方々、求道中の方々が主の導きを受け、信仰に導かれますように
- ◆深刻な水不足が続ぎ、断水措置が継続中(状況により一週間に二日断水から三日断水へ)です。農作物以上に、半導体などの業界にも影響が出ています。必要な雨量が与えられますように
- ◆緊迫した国際情勢の中、台湾の政治と経済、治安が保たれ続けますように。
- 香港(鹿島)  
◆集会人数制限が発出されている中、6月7日の教会創立12周年記念を感謝とともに迎えられますように
- ◆新しく礼拝にいられている方々や経済的な戦いの中を通されている教会員の方々の上に豊かな導きが与えられますように
- ◆新型コロナが終息し、再び近隣への次のステップが開かれますように

- ケニア(葛田就子)  
◆遅延していた備品が届いた感謝
- ◆ウィルス関連の様々な長期ストリスの中にある患者さん、ご家族スタッフのため
- ◆麻酔科、整形外科をはじめとする働き人(ルカ一〇章二節)が起こされるように
- カンボジア(葛田緑乃)  
◆コロナの広がりのための厳しい制約の中に過ごしているクメールの人々の救いのために教会が世の光として輝くように
- ◆新しい職場を祈り求めつつ信仰の戦いを進めているテス夫人と教育費のために祈っているヴァンディ先生一家のために
- ◆無実の罪による投獄中のパウロ兄が獄中において福音を語る宣教者とされるよう、信仰と愛と慎みの霊が注がれるように
- フィリピン(豊田)  
◆卒業(5月)をした学生たち、夏休みに入った学生たちが霊肉ともに守られるように
- ◆来学期(8月)に向けて進められる大学の準備のために。ウエスレアン教会の霊的、経済的な必要のために
- ◆事故、事件、怪我、過ち、災害病、疫病から家族が守られますように。常喜の右目網膜の回復のために。宣教師ビザの更新手続きのために



# 聖宣神学院報



## Immanuel Bible Training College

### 見よ わたしのしもべ

院長 ● 林 正弘

「見よ。わたしが支えるわたしのしもべ、わたしの心が喜ぶ、わたしの選んだ者。わたしは彼の上にわたしの霊を授け、彼は国々にさばきを行う。」

(イザヤ四二・一)

イザヤ書には一連の「しもべの歌」があります。主のしもべについては、失敗してしまったイスラエルを指しているところもありますが、メシア、すなわちキリストの姿を示していると考えられる箇所が「しもべの歌」で、そのクライマックスは五三章に描かれている苦難の姿です。四二章には最初の「しもべの歌」が出てきま

す。この預言が主イエスにおいて成就したことがマタイの福音書に記されていますので、私たちはこのしもべの姿を主イエスと重ねて見ることが出来ます。そしてこれは、主イエスに従う私たちのあるべき姿、なすべき務めを示すものでもあります。主に召されて奉仕に当たる者は、このしもべの姿に学び、倣わなければなりません。主イエスはご自分について「仕えられるためではなく仕えるために……来たのです」とおっしゃいました。ですから私たちも最初から最後まで仕える者であるべきです。しかし、「今は仕えているけ

れどもいつかは持ち上げられ、指導する立場になる」と思い違いをしてしまうことがあります。

イザヤの預言に見るしもべは、確かに神に選ばれ、義と救いを宣言し、さばきを行います。神の道を示していく務めがあります。しかし、それは上から目線ではなく、謙遜と柔和と堅忍不拔の姿勢をもって果たされていきます。しもべは自分の働きを吹聴しませんが、傷んだ葦やくすぶる灯心を大切に

する優しさを持ちつつ、自分自身は衰えたりくじけたりせずに務めを完遂します。これがしもべとしての主イエスの姿です。



4月には対面でのクラスを持つことができました

私が主都中央教会の青年会にいたときのこと。午後の伝道会で井川正一郎先生が「生きがいのある人は、死にがいのある人ですよ」と微笑みながら話をしてくださいました。何年経ってもその言葉は印象的で忘れることはできません。先日教会で呉教会員の里村佳子姉によるビデオ「認知症の人と良い関係を築く研修」を見ました。「毎日1500ミリリットルの水を飲みましょう。そうすると血液がドロドロになりません」「認知症には4つのタイプがあって、それぞれ症状が違い、対処方法が違います」と語られていました。

ある一人暮らしの男性のことを思い出します。晩年に主を信じて、たくさん聖句をカードにして「先生合っているか聞いて」と一つ一つ暗唱してくださったことがあります。段々弱さを感じてこれ、突然怒り出したり、幻視と思われることを聞くこともありました。里村先生の4つのパターンを学んでこれだったのだと

### 神学エッセー 1 信仰の旅路にて 老いと死



野田 禎

理解しました。でも、その時には分けも分らず、突然大きな声を上げて怒り出すのに理解できませんでした。それでも、訪問し続けました。脑梗塞で倒れてから、文字を読むことができなくなりました。あるグループホームに入りました。スタッフへの暴言や暴力もあり、手を焼いているようでした。私が訪問すると歓迎してくれました。賛美歌を歌い、救われていたことや天国のことをよく話しました。亡くなる一週間ほど前には座ることもできず横になったままでしたが、お話をし賛美歌を歌い、お祈りをしました。「ありがとう。ありがとう」と仰ってくださいました。召されたあと施設長が話してくれました。「不思議なんですよ、亡くなる3日前から、私たちに何度も何度も『ありがとう』と言うのです。いつもと違うのでびびりました。そして安らかなお顔で亡くなりました。」

社会福祉の後見人の方が、本人が以前「私の遺言」として書いた中に「教会で葬儀をしたい」とあったので、教会で葬儀をと申し出てくださり、教会で葬儀をし、遺骨は教会の墓地に、その隣には洗礼式の時の写真が飾られています。

やがて天国で愛する主に会うことができます。「生きがいのある人は、死にがいのある」を思いながら、主がくださる「聖」さを瞳のように大切に、主の恵みを伝えらる「宣」の喜びを思いつつ歩めたら幸いです。

◆前期の学びを通して

主にあつて無駄ではない

正規コース 林 眞光

「あなたがたは、自分たちの労苦が主にあつて無駄ではないことを知っているのですから。」

(一コリント一五・58)

早いもので新年度が始まって一か月が経ちました。皆様の日々のお祈り感謝いたします。神様に守られて4月は対面で授業を持つことができました。オンラインとは違い仲間たちと一つの場所で学ぶことで、新しい発見と刺激を受けることができ楽しく学ばせていただいています。

授業の中で「聖書読解法」という授業があります。この授業は聖書を聖書自体から読み取り、理解を深めていくという授業です。今は聖書の伝えたい事をより深く理解するための視点について学んでいます。

その視点というものが、学校で学ぶような国語の技法を用いて読み取っていくというものです。例えば聖書のある書を読み解くときにその書に繰り返し出ている言葉に注目してみたり、比較されている事柄に注目してみたりという視点です。

私は聖書をこのように論理的に読む習慣がなく、毎週の授業で新しい発見をさせていただいています。学びをする中このような形で自分が小中高と学んできた国語の技法を使い聖書を理解していくとは思っていませんでした。小中高の時の自分は「勉強面倒くさいな」くらいにしか思っていないかと思ひます。それこそテストや受験のために学んでいて、それ以降何かに役立つとも思っていないで

した。しかし神様は聖書を理解するために、当時学んでいたことを生かしてくださいました。自分では無駄だと思われることも「主にあつて」無駄ではなかったと気づかされました。

これからもこれは必要なだろうかと思う働きや苦労があるかもしれせん。しかしその一つ一つが「主にあつて」無駄ではない、神様が用いて下さることを覚えて日々の学びと働きを大切にしたいと思ひます。

◆前期の学びを通して

知るとき

正規コース 石川 順

「主は私の羊飼ひ」

(詩篇 三三・一)

新しい年度になり神学院の食堂が再開しました。しかし、四月末に3度目の緊急事態宣言が発令されたことを受け、再び食堂での食事が中止になりました。一日でも早くこの状況が良くなるようにと祈ります。

さて、神学院の授業の中に「牧会演習」というクラスがあります。毎週それぞれの実習教会であった出来事や、その出来事について自分の心がどのように動いたかということを感じ巡らしてシェアする時間です。この時間は私にとって

自分を知る時でもあり、自分を知らせてもらう時でもあり、相手を知らずともいいと思えるかを考えて話します。「どこまでだったか」というのは自分を知る作業です。自分がどう思ったかということと話をすることで自分を知ってもらう時にもなります。また他の神学生の発言を聞くことで、その方のことを知ります。お互いが話している中でいろんなことを知ることが出来ます。また、神様が自分

どのように扱ってくださったのか、他の神学生にどのように関わっておられたのかということも知ることが出来ることは恵みだと感じます。また、守秘義務という観点から、登場人物が特定されないように話すように心がけます。しかし、内容によっては登場人物の年齢や性別、職業など話さないことと文脈が分からないこともあるので、

どこまで一般化するのかということも考えます。これは守秘義務を養うための一つの訓練です。こうした時間の中にイエス様がおられて、一人ひとりを導いてくださっていることを感じています。いつもお祈りと尊いサポートをありがとうございます。



神学院の新しい態勢

学監の任命を受けて

学監 梅田 昇

「私たちは憐れみを受けてこの務めについているので、落胆することはありません」

(一コリント四章一節)

今年の年会で思いがけず聖宣神学院学監の任命を頂き、ただ主の憐れみの故であること自覚しています。学監の働きは、院長を補佐し、学科、及び訓練課程カリキュラムの編成、調整、記録などに

当たることです。聖宣神学院は、1949年丸の内ビルの一室で始められ、長い歴史と伝統があり、多くの卒業生の方々を輩出してきました。それらを十分に理解した上で、今の時代に適した伝道者養成に当たる必要があります。院長、教師方、BTC運営委員の方々とコミュニケーションを計りながら、委ねられた奉仕をさせて頂きたいと願っています。神学院は伝道者の原型、ひな型が作られる場所ですが、実際的に何を学ぶかは重要なことです。カリキュラムは折々に検討を重ねて行くことが求められていると理解しています。

また神学生の方々が、喜んで学べるような学術的な環境を提供することが大切かと認識しています。神学生の方々にも個人的な生活や家庭があり、実習先の教会での奉仕があり、またクラスでの学びもあります。授業の課題が多すぎても過度な負担になる場合があります。神学生の方々にも率直な意見、要望を伺いながら、学監としての奉仕を果たしていく必要があると感じています。また、若い方々が献身して学びたいと思つて頂けるような魅力的な聖宣神学院を目指して、与えられた責任を果たして行きたいと心から願っています。伝道牧会の現場で奉仕をしておられる先生方から忌憚のないご意見、ご要望などがありましたら、積極的にご寄せいただけますと大変感謝です。

いま神学院では……

### 「牧会演習」という授業

教師 ● 田辺寿雄



4月より神学院寮監・教師となりました。今学期は「牧会演習」という授業を、毎週火曜日午後を担当しています。「牧会演習」は毎年・毎学期行われており、基本的に講義形式ではありません。神学生方に毎週末の教会実習での経験を分ち合って頂き、その中で出てきたトピックなども含めて自由にディスカッションできる、分ち合い中心の授業です。まず、神学生は週末の実習について定められた報告書をまとめ、私にメールで送って下さいます。私はそれを読んで授業に臨むこととなります。

授業では、一人ずつ報告をしてもらいます。学生数は3名なので、たっぷり時間があります。主に、報告書の「具体的な奉仕の場面と考察」欄に書いてくださったことをシェアされる場合が多いです。例えば、教会員とのちょっとした会話から感じたことや、奉仕をしていて湧き上がった思いや感情など、内面的な細かな疑問や気づきを語られます。皆さんよく気づきを与えられていて、いつも感心します。自分が神学生時代にも、

このような授業があったら良かったなと思いました。

「牧会演習」で大切にしていることは、「知ること・理解を深めること」です。実習先の教会を知る（歴史、現状など）、人を知る（牧師や信徒、求道者など）、そして自分を知ること。教会や人を知り、理解しようとするとき、聞くことを中心とするコミュニケーションが重要になります。教会の建て上げとその要となる信頼関係の構築も、コミュニケーションのあり方にかかっています。躓きや失敗の多くも、コミュニケーションの拙さによるものです。実習の報告をまとめ、クラスで分かち合うことよって、自分のコミュニケーションのあり方を振り返る機会が毎週与えられていることは、とても有意義なことだと考えています。

また自分を知ることに関しては、自分の性格、賜物、感情、長所や短所などが含まれるかと思いが、クラスでは特に、自分の心の動きや感情に焦点が当てられることが多いです。神学生方は、どんな思いや感情になったかを気づくことから始まり、その上で、ではどうしてそんな感情になったのだろうか、と振り返ります。自分の感情のパターンなども見えて来ます。先日は「牧師が気をつけるべきネガティブな感情」について、一緒に学んだところです。私も生徒の一人になったつもりで分かち合いに参加し、自分理解を深められたらと願っています。

### 同窓生の近況

60期生

日本宣教会きさらづ教会 ● 重城あゆみ



「ですから、明日のことまで心配しなくてよいのです。明日のことは明日が心配します。苦勞はその日その日に十分あります。」

(マタイ六章三四節)

いつも尊いお祈りありがとうございました。聖宣神学院を卒業して、来年で十年になります。私は昨年から準教職になり、母教会でもある日本宣教会きさらづキリスト教会で副牧師をしています。

主に愛されている教会で、奉仕できることを感謝しております。コロナ禍にあつて、主の守りを祈りながら、教会は感染症対策をしながら活動を続けています。

新しい方が教会に加わることも、また健康上の理由や様々な理由で教会から遠ざかっている兄弟姉妹が戻ることを、祈りながら与えられた一日一日を、精一杯生き抜いています。子ども伝道の働きが開かれて、地域の子どもたちに福音が届き、次の教会を担う世代が救われるよう、祈りながら模索中です。日本宣教会は2023年で百周年になります。引き続き、お祈りよろしくお願いたします。

### 神学院スタッフ…恵みの想起

#### 樹木からの恵み

経理課 渡辺真理

5月後半になると、神学院の樹木は緑で覆われます。毎年この時期に、どんぐりがなる木から細長い紐状のものが多量に落ちます。それは、雄花序という名であることを最近知りました。雄花序は細長い軸に小さな雄花がたくさん着き、雌花に受粉を終えて、その軸ごと落ちます。小さな雄花を通して、それがやがてどんぐりの実へ成長します。「雄花 ↓ …… ↓ …… ↓ 地に落ち ↓ 種 ↓ 発芽 ……」と、いのちのバトンを受け継がれていることを知りました。

神学生方は、いのちである信仰のバトンを手にして、学びを継続しております。それが次世代へ受け継がれるために、学院生活が恵み豊かでありますように、祈る者であります。

● 再開したばかりの対面授業や食堂も、一部を除きコロナウイルス感染拡大のために再び閉じることになりました。しかし、神学生スタッフは守られて元気に過ごしています。

● 5月17日に神学院は創立72周年を迎えました。全国の教会からの尊い献金とお祈りを感謝いたします。

● 今年はコロナのこともあり、神学生の特別実習は行わず、通常の教会実習をそれぞれの出身教会、及び中目黒教会で引き続き行っています。奉仕が守られますようにお祈りください。

● 5月13日午後神学院教師会がZoomで持たれました。これからの神学院の在り方について、熱心な議論がなされました。牧会の傍ら教鞭をとってくださる先生方のためにもお祈りをよろしくお願いたします。

#### サポーターズ

尊いお献げものに心より感謝申し上げます。4月の会計報告をさせていただきます。

4月分支援実状  
〔今年度毎月献金目標〕  
¥1,500,000

教会員による「神学院サポート献金」  
¥542,685  
教会団体による「神学院献金」  
¥522,885  
合計 ¥1,065,670  
その他の献金（一時・特別）  
¥18,000

・振替：00230-0-10138

### 学苑だより



# 公報

## 本部通達

「あなたがたも、多くの苦難の中で、聖霊による喜びをもって、ことばを受け入れ、私たちに、そして主に倣う者になりました。」  
(1テサロニケ一・6)

上半期を締めくくる月に入りました。全国の教会はコロナウイルスの変異株による影響で大きな困難の中、ペンテコステを過ごされたと思います。主が聖霊の同行をもって導いてくださることを信じ、祝福をお祈り申し上げます。この困難の中でも新たに主に出会い、導かれる方々が起こされ、伝道は進んでいます。主が備えておられる実りの時に向けて進みましょう。

### ■本部

本部業務は在宅での業務を中心として継続しています。火曜日〓総務局 午後1時〜4時 常駐者1名 / 木曜日〓出版事業部 午後1時〜4時 常駐者1名 (会議)

▽10日(木) 災害対策委員会

▽29日(火) 厚生委員会

■国内教会局

▽公開Zoomセミナー「コロナ禍における教会形成」主催 宣教研究委員会・国内教会局  
西日本(中京・北越・近畿・中国・四国・九州・沖縄)

6月14日(月) 午後1時30分〜3時30分

東日本(北海道・東北・東関東・北関東・東京・神奈川・静岡)  
6月28日(月) 午後1時30分〜3時30分  
\*セミナー中にグループの分かち合いがあります。

申し込み先メールアドレス  
korona.seminar2021@gmail.com

(申込後、メールでZoomリンク先が送られてきます。当日そこから参加ください。信徒の方も参加可能です。) 担当・平瀬聡樹師申込締切〓西日本6月7日(月)、東日本6月21日(月)

\*日程の都合がつかない場合は、他の地域のセミナーにお申し込みください。  
〓JEA(日本福音同盟) 第36回JEA総会  
6月7日(月)〜9日(水)につま恋リゾート彩の郷で開催予定でしたJEA総会はズームによるオンライン開催に変更となりました。6月7日(月)〜8日(火)、2日間の短縮プログラムとなります。当教団からの代議員は岩上祝仁、内山勝、葛田聡毅、葛田直毅、川嶋直行の各師5名です。

〓JEF(日本福音連盟) 第53回JEF総会・福岡大会  
6月20日(日)〜22日(火)

《女性牧師研修会》  
6月14日(月) 午後2時〜4時  
テーマ「コロナ禍にある女性牧師のセルフケア」、「教職試験への対策内」

申し込み先メールアドレス  
kenshu2021@immanuel.or.jp

### ■世界宣教局

▽世界宣教局運営委員会  
6月1日(火) 午前10時

▽久保光彦・せきな宣教師ご一家は、5月21日に予定されていた出発を急遽早めて、18日に台湾へ出発、無事入国されました。台湾での感染者急増に伴う外国人入国禁止が実施される前日に、ぎりぎり間に合いました。お祈りを心から感謝します。3週間の自主隔離期間後、平瀬義樹師との引継ぎが行われます。台湾での新しい生活が始まるご家族と、残つてご奉仕されている平瀬師のために、また新しい牧師を迎えた台中教会のためにお祈りください。

▽4月に心臓バイパス手術を受けられた富澤元宣教師は、5月20日に無事退院されました。お祈りを心から感謝いたします。  
▽今年の「愛の泉プロジェクト」は次の通りです。教会で、または個人で、宣教コイン献金にぜひお加わりください。  
・台湾〓教会備付用の聖書と教会福音讃美歌、各10冊  
・フィリピン〓図書館の学生用パソコン4台  
・ケニア〓皮膚移植用機械替刃  
・カンボジア〓教役者セミナー

(IWF関係)  
▽ロビン・ホワイト宣教師は漫画ミニストリーの第一作を夏に出されます。神様の導きと知恵が与えられるようにお祈りください。

■教育部・信徒教育課  
〓教育部・信徒教育課

発行人 岩上祝仁 編集者 寺村秀嗣  
発行所 東京都千代田区神田駿河台一〇〇〇ビル イムマヌエル綜合伝道団本部

▽各教会・個人で自由に視聴可能な信徒向け聖書講座(無料)。内容〓「使徒の働き」の学び(現在は第6回まで公開中)  
講師〓岩上敬人師(JEA総主事) 〓希望の際は、教団公式サイト「教育局」信徒教育課」にアクセスを。  
(青少年部・青年課)

▽ビルド(YS)が名称変更したものと、今後各方面に告知されて行くことになりました。  
会合〓毎月1度、テーマを決めてZoomで開催中。毎回15〜20名程度の方々が参加中。(担当窓口: 吉村和記師、川村和臣師)  
〓YSB第6回リトリート  
日時〓6月27日(日) 15時〜17時

(Zoomによるオンライン開催)  
テーマ〓「神様と教会と私」  
内容〓賛美・教会紹介(動画)・ショートメッセージ・分かち合い。  
申込〓各教会配布チラシにあるアドレスかQRコードを用いてアクセス。  
窓口〓吉村和記師(久留米教会) (青少年部・中高生課)  
〓第14回とにキャン(2021)  
日時〓8月12日(木)、13日(金) (Zoomによるオンライン開催)  
講師〓大島重徳師(鳩ヶ谷福音自由教会)  
テーマ〓「神からのエール」

▽新聖書セミナー③eラーニング  
5月17日から開講中(8週間、途中からでも受講可能です)  
「ペテロの手紙第一を読む」  
講師〓石田学師(小山ナザレン教会牧師)

印刷所 埼玉県比企郡鳩山町熊井七〇〇〇〇ビル  
イムマヌエル綜合伝道団本部

(Note)のマガジン購入によるオンライン開講  
申込〓教会配布チラシQRコードを用いてください。  
牧師・神学生・信徒伝道者には補助があります。(補助申請は野田禎師まで)

■信徒局  
6月19日(土)に開催予定のカナフェロシップは中止いたします。

■聖宣神学院  
▽神学院祈り会は休止中です。  
▽後援会関係  
・例年より遅くなりましたが、後援会より第9号をお送りしました。ぜひお読みください。  
・後援会会費にご協力くださり、感謝いたします。ご理解とご協力をよろしくお願いたします。

■出版事業部  
▽出版事業部常勤部会  
6月11日(金) 午後1時30分  
「祈りのネットワーク2021」今年もまた業務の省略化などのため、昨年と同数を無料配布いたします。各教会で積極的にお使いください。

## 消息報告



▼一木訓治師 茂子師(引退牧師)の住所が変更になりました。新住所は左記の通りです。〒737-0045 呉市本通4-3-21-705  
080-3012-7518  
教報PDFパスワード〓7043

新生宣教団 定価 一部110円(税込)  
郵便振替 001107133609